

大切な人やものを失って、抱えきれない気持ち、誰にも話せないこと、
お話しただけの相談窓口があります。

電話相談

毎月第1日曜日 午後3時～5時
第3水曜日 午後6時～8時
第4金曜日 午後3時～5時
電話 03-6453-4925

対面相談 (要予約)

初回：2時間・無料
電話、FAXまたはメールで、お名前とご連絡先をお知らせください。
初回予約日の日程調整をさせていただきます。
留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。
電話：03-6453-4925 FAX：03-6453-4926
メール：griefsetagaya@yahoo.co.jp

グリーフ サポート プログラム

11時～12時半
～大切な人を亡くした子どもや大人の集い～
定員：5名(要申し込み) 第1日曜日 大人プログラム(19歳以上)
参加費：子ども無料、 第2日曜日 パートナー死別ピアサポートプログラム
大人1回500円 第3土曜日 子どもプログラム(3歳～18歳)

「グリーフサポートせたがや」の オンライン講座

ひび 響き合う グリーフ

身近な人や大切なものを失って感じる、
哀しみや傷つきなどのさまざまな心身の反応を
「グリーフ」といいます。



おひとりでも、複数でもゆったり過ごせる場です。
どなたでもお越しいただけます。

開催日時 隔月(偶数月)第3土曜日午後4時～7時
参加費 18歳まで無料 19歳から1人500円
場所 サポコハウス(世田谷区太子堂5-24-20-201)三軒茶屋駅から徒歩15分
開催の有無などはFBやウェブサイトでご確認ください。

一般社団法人

グリーフサポートせたがや(グリサポせたがや)って?

死別を体験した子どもやおとなが集い、ゆっくりと自分のペースで自分の気持ちと向き合うことのできる家「サポコハウス」を世田谷区太子堂で運営しています。世田谷区グリーフサポート事業においては、個別対面相談や電話相談などを実施しています。

2020年
8/1(土)

看取りや死別をコミュニティで支えあう
～共感(compassion)をキーワードに
講師：山崎浩司さん(信州大学 医学部 保健学科 准教授)

2020年
10/3(土)

ひとりじゃないよー病気や障害など
特別なニーズをもつ子どもの「きょうだい」支援
講師：清田悠代さん(NPO法人「しぶたね」代表)

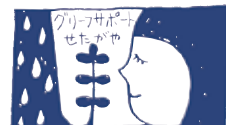
2020年
12/5(土)

ゆっくりていねいにつながる～当事者研究の視点から
講師：熊谷晋一郎さん・綾屋紗月さん
(東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野)

お申込みいただいた方にオンライン講座のURLと参加費についてご連絡します。

✉ griefsetagaya@yahoo.co.jp HP sapoko.org

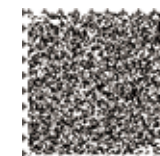
f www.facebook.com/griefsupportsetagaya



主催：一般社団法人グリーフサポートせたがや
共催：世田谷区
所管：世田谷保健所健康推進課

イラスト：いちむらみさこ
デザイン：merino

この連続講座は世田谷区グリーフサポート事業により補助されています。



「グリーフサポートせたがや」の
オンライン講座

しび
響き合う
グリーフ



2020年
第1回 8/1 (土)

看取りや死別をコミュニティで支えあう ～共感(compassion)をキーワードに

講師：山崎浩司さん(信州大学 医学部 保健学科 准教授)

上智大学比較文化学部卒、英国エディンバラ大学大学院社会政治科学研究科修了、京都大学大学院人間・環境学研究科満期単位取得退学(後に博士号取得)。京都大学研究員、関西看護医療大学専任講師、東京大学特任講師を経て、2011年10月より現職。専門は死生学、医療社会学、質的研究法。死別や看取りの困難に直面した人々にとって共感的で相互支援的な地域コミュニティの形成(まちづくり)を目指す参加型アクションリサーチ(信州・松本地域の有志市民との共同)、死・医療・原爆などがテーマのマンガを題材にした死生学的考察、壮中年期の配偶者死別の研究などにとりくんでいる。主な著書に、『死生学のフィールド』(共編著、放送大学教育振興会、2018年)、『死別をコミュニティで支えあう：地域協働的な死別体験者支援』(『医療・介護のための死生学入門』収録、東京大学出版会、2017)、『日常のなかで死にゆくために：在宅死・在宅看取りを超えて』(『ケア従事者のための死生学』収録、ヌーヴェルヒロカワ、2010年)、『ケアの力学』(『生と死のケアを考える』収録、法蔵館、2000)など。

参加費：1000円

申し込み：お名前、メールアドレス、電話番号を
明記の上、配信日の一週間前までに、
Email、電話、またはFAXで一般社団
法人グリーフサポートせたがやまで。

お申し込みいただいた方にオンライン講座の
URLと参加費1,000円の振込先をご連絡します。

Email : griefsetagaya@yahoo.co.jp

電話 : 03-6453-4925

FAX : 03-6453-4926

留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。
折り返しご連絡します。

*単発の参加も可能です。

*トークには日本語字幕がつきます。

2020年
第2回 10/3 (土)

ひとりじゃないよー病気や障害など 特別なニーズをもつ子どもの「きょうだい」支援

講師：清田悠代さん(NPO法人「しぶたね」代表)

NPO法人しぶたね理事長。社会福祉士。心臓病の弟を亡くした経験を契機に2003年11月ボランティアグループ「しぶたね」を結成し、病気の子どものきょうだいへの支援を開始。2016年9月法人化。きょうだいのためのワークショップの開催、病院できょうだいと過ごすボランティア活動のほか、全国各地で講演活動、シブリングサポーター(きょうだいの応援団)研修ワークショップを開催し、きょうだい支援の種を蒔き続けている。2017年「第11回よみうり子育て応援団大賞」の大賞を受賞、2018年度にはきょうだい支援の世界的先駆者であり、特別なニーズのある子どものきょうだいのためのワークショップ「シブショップ」開発者ドナルド・マイヤー氏の講演会を東京および大阪で開催。そのほか、きょうだいに周りの大人の愛情を伝える小冊子「きょうだいさんのための本」(2011年発行、累計37,000冊)、兄弟姉妹を病気で亡くした子どものための小冊子「きょうだいさんのための本②」(2018年発行、累計35,000冊)を作成し、配布している。

2020年
第3回 12/5 (土)

ゆっくりていねいにつながる ～当事者研究の視点から

講師：熊谷晋一郎さん・綾屋紗月さん

(東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野)

熊谷晋一郎さん

東京大学先端科学技術研究センター准教授。新生児仮死の後遺症で、脳性マヒに。以後車いす生活となる。大学時代は全国障害学生支援センタースタッフとして、障害をもつ人々の高等教育支援に関わる。東京大学医学部医学科卒業後、小児科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。専門は小児科学、当事者研究。主な著作に、『リハビリの夜』(医学書院、2009年)、『発達障害当事者研究』(共著、医学書院、2008年)、『つながりの作法』(共著、NHK出版、2010年)、『痛みの哲学』(共著、青土社、2013年)、『みんなの当事者研究』(編著、金剛出版、2017年)、『当事者研究と専門知』(編著、金剛出版、2018年)など。

綾屋紗月さん

東京大学先端科学技術研究センター特任講師。4歳頃から集団になじまず、「自分は何者なのだろう」という問いに苦しみ、疎外感を抱きながら過ごす。2006年、アスペルガー症候群の存在を知り、自閉スペクトラムの診断名をもらう。発達障害者が参加・運営する当事者研究会「おとえもじて」主催。著書に『発達障害当事者研究』(熊谷晋一郎との共著、医学書院)、『増補 前略、離婚を決めました』(よりみちパン!セ シリーズ)、編著に『ソーシャル・マジョリティ研究』(金子書房)など。

